

韓国と日本、人と人の ネットワークを生かして。

専修大学 韓国同門会

in
ソウル

経済の勢いを象徴するように高層ビルが立ち並び、建設ラッシュの韓国。本学への留学生が多い国の一つで、卒業後、日本で就職したり、また韓国に戻って活躍している校友も多数います。

本学に留学し、韓国に帰国した校友同士の交流は活発で、3カ月に一回ほど集まっているグループもあるとのこと。支部総会を開催しようという機運が高まり、「専修大学 韓国同門会」が昨年9月3日(金)、韓国ソウル市で盛大に開催されました。今回の韓国取材のコーディネートをいただいた^{チョウシヨン}趙時英先生(商学部非常勤講師)はじめ、当日の午前と午後に「われら専修人」の取材をさせていただいた^{チョウダイヒョン}曹大鉉さんや^{イジャムク}李子黙さん(本号の10~11ページ参照)など、大勢の校友が集まりました。日高義博理事長・学長のあいさつに始まり、本学留学の想い出、近況など韓国語・日本語が飛び交い、和やかな時間が過ぎました。

韓国同門会会長の^{イムハンジン}任恒信さんには、

支部の現状や抱負などについてお聞きしました。任さんは韓国でバイク便事業を展開しており、若手経営者として注目を集めています。

「韓国から専修大学に留学した、もっとも古い世代は80代の先輩たちです。その人たちは同窓会を開催していました。私も数回、参加した経験があります。その方たちは、ほとんどはお亡くなりになりましたが、その下の世代となると50代です。

最近では、若い校友が増えてきたこともあり、韓国同門会をもっと活性化しようじゃないかと、数人の仲間と一緒に呼びかけました。趙先生からも帰国された際にお会いして、いろいろとアドバイスをいただき、きょうの会となりました。これからは、人と人のネットワークを生かして同窓会的な集まりはもちろん、ビジネス面でも韓国と日本が手を結んで、大きく展開していければと思います」

(聞き手・編集部)



スポットミニガイド
支部のある街

高層ビルと屋台とコンビニ



高層ビルの下の道路には屋台、といっても、かなり近代的な屋台もありますが、飲料をはじめ料理、衣料品など、さまざまな商品を販売しています。街中で自動販売機は、ほとんど目につきませんが、日系のファミリーマート、地元資本などコンビニがたくさんありました。

観光案内所



ロッテホテルから歩いて10分ほどの場所があり、日本語の分かるスタッフがいます。インターネットが無料で使えるパソコンがあったり、韓流スターの手形もあります。また、一角には最近、韓国・日本も力を入れている、メディカル(医療)・ツーリズムの案内コーナーもあります。



お話を
聞いた人

韓国同門会会長
^{イムハンジン}任恒信さん
(平4・経営)

